

大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 2590号 2015.8.20 発行

発達障害、支援機関一目で 池田市が分野別マップ 大阪日日新聞 2015年8月19日



大阪府池田市は発達障害に関して乳幼児期から成人・高齢期まで、ライフステージに応じたサービスなどを分かりやすくまとめた冊子「池田市発達支援Map」を作成した。市役所をはじめ、各関係機関で配布している。

各年代ごとに沿った発達障害への支援体制を記したマップ

発達障害など、子どもの発達について「どこに相談しに行ったらよいか分かりにくい」といった声が、以前から市民より寄せられていた。

マップのデータは、同市と研究委託契約を結ぶ大阪大大学院の中に設置されている大阪大・

金沢大・浜松医科大・千葉大・福井大連合小児発達学研究所（研究科長・片山泰一）の特任研究員が中心となり、同市の心理指導員とともに作成した。

マップはA4判カラー28ページ。見開き2ページで妊娠期から高齢期に至るまで年齢別の解説図を掲載しているほか、「医療」「子育て」「専門療育・訓練」「就労・社会参加」など10分野別に、簡単な内容と連絡先をわかりやすく紹介している。また、以前から同市で配布している子育て関連のパンフレットについても、写真を掲載しながら紹介するなど工夫を加えた。

発行部数は3千部。市役所1階をはじめ同市立保健福祉総合センターなどに置くほか、児童健診の実施時などにも配布する。

問い合わせは電話072（754）6102、同市発達支援課。

弁護士と離婚テーマの劇熟演 子の気持ちを伝えたい 東京新聞 2015年8月19日

けいこに熱が入る弁護士や子どもたち=東京都千代田区の弁護士会館で

離婚や再婚をめぐる裁判でのやりとりの中で、置き去りにされがちな子の気持ち。その寂しさや願いを知ってほしいと、弁護士や親が離婚した子どもたちなどがオリジナルの劇「もがれた翼パート22 家族のカタチ」を二十二日、東京都北区の赤羽会館で上演する。劇には、子どもが家庭裁判所の調停に参加できる制度の紹介も盛り込み、制度活用への啓発も狙っている。（竹上順子）



「お別れの理由をちゃんと説明してほしい」「別々に暮らすようになって両方の親と会いたい」

劇は小学六年の「コトミ」と高校一年の「キリコ」姉妹が、両親の離婚や再婚に戸惑いながらも、自分の納得いく生き方を選んでいく物語。初めは「パパとママが決めること」と気持ちを抑えていた二人だが、周りの大人たちに支えられて、本当の思いを伝えられるようになっていく。

公演は、東京弁護士会が「子どもの権利条約」批准を機に、二十一年前から主催。今回は弁護士や子どもら十八人が出演する。

十二年前から脚本を担当する坪井花梨（かりん）さん（32）は、虐待を受けた子どもが避難する、子どもシェルターを運営する社会福祉法人「カリヨン子どもセンター」の事務局長。

親子が互いに相手を気遣って本心を言えなくなることなど、毎回、自分が接したり、弁護士らに聞いたりした事例を織り込み、希望の持てる物語を描いている。

今回の劇では、離婚や面会交流などの調停や審判で、子どもの意見を聞くため二〇一三年一月に始まった制度「子どもの手続き代理人」を務める弁護士が重要な役割を担う。

日本弁護士連合会などによると、年間二十万件以上ある離婚のうち、親権や親子の面会交流などをめぐる裁判・調停は昨年四万四千六百三件に上った。しかし、制度の利用は導入以降、全国で十七件しかない。日弁連は、中立な立場の家裁調査官だけでなく、さらに子どもに寄り添う立場の弁護士が付いた方が、子どものために有効だとしている。劇では、こうした制度を多くの人たちに知ってもらおうと、主人公の家族の飼い猫たちが分かりやすく説明する。

コトミを演じる中学三年の安達麻衣菜（まいな）さん（15）は自身も幼いころに両親の離婚を経験。昨年の公演を見て出演を希望した。

父親の顔を覚えておらず「話に出てくる『面会交流』はいいなと思った」と話す。

シェルターの存在も初めて知ったといい、公演を「私と同年代の子や、親の仲が悪いという子に見てほしい」と呼び掛ける。

子どもの手続き代理人を務めた経験のある弁護士の渡辺淳子さん（61）は「自分は独りぼっちだと考える子は多いが、真剣に子どものことを考える大人が存在すると知ってほしい」と力を込める。

出演者で弁護士の安藤万里子さん（33）は「離婚や再婚が駄目なんじゃない。どうすれば子どもの気持ちを大切にできるか考えるきっかけにしてほしい」と話す。

入場無料。昼の部は午後三時半、夜の部は同六時半開演（開場は各三十分前）。全自由席。問い合わせは、東京弁護士会人権課＝電03（3581）2205＝へ。

子どもの手続き代理人 子どもが家庭裁判所の審判・調停に参加し、意見を表明するのを援助する弁護士。2013年の家事事件手続法施行で制度が始まった。参加できるのは離婚調停や面会交流、親権者の指定・変更など、子に直接影響する調停や審判。



愛知) 高浜高校生が宅老所で昼食づくり

朝日新聞 2015年8月19日
高校生と一緒に食事をするお年寄りたち＝高浜市呉竹町の宅老所こっちゃん

高浜市の県立高浜高校福祉科の2年生10人が17日、地域福祉を学ぼうと、同市呉竹町2丁目にある宅老所で昼食作りをした。

同宅老所は週2回開設され、15人ほどが利用する。1食300円で昼食も提

供している。17日は生徒たちが引き受け、日頃、お年寄りがあまり食べないメニューを考案した。「夏野菜のペンネ」を中心にしたポテトサラダ、トウガン汁、おにぎりなど。朝からボランティアの指導を受けて昼食を作った。

この後、お年寄りたちと一緒に食事をした。最高齢95歳の野々山ヒサさんは「おいしかった。ありがたいことです」と話した。杉浦緑さん(81)は「時々は高校生に調理にはいってほしい」。古橋里奈さん(16)は「ちょっと量が多い、という声があったので次は改善したい」と話した。

バーガーフェスタ県予選に初参戦 南部・ノームの糸車 日本海新聞 2015年8月19日
鳥取県南部町鶴田の福祉作業所「ノームの糸車」が、同町産のナッツやイチジクなどの食材をふんだんに使ったハンバーガーを開発した。29日に伯耆町で開かれるとっとりバーガーフェスタの鳥取県予選に初参戦する。



南部町産の食材をふんだんに使った「グラノーラといちじくソースのクラッシュナッツバーガー」＝南部町役場法勝寺庁舎

同作業所は2013年、地元食材を使ったシロップやスイーツの製造を開始。地域との連携を深め、バーガーフェスタ参加に向けて一緒に盛り上がり、地域活性化につなげようとメニュー開発を企画した。

開発された「グラノーラといちじくソースのクラッシュナッツバーガー」は、女性をターゲットに美容と健康にいいバーガーを目指し、肉を一切使っていないのが特徴。

穀物のタカキビと小麦粉、古代米を練り合わせたパテを、カボチャやヒマワリの種、クラッシュナッツなどをまぶしたバンズで挟んだ。イチジクをふんだんに使ったトマトソースやカシューナッツマヨネーズをたっぷりと塗り、食欲をそそる。

11日に南部町役場法勝寺庁舎であった試食会で、参加者からは「パテが肉のような食感」「思ったよりボリュームがある」などと好評だった。ノームの糸車を運営するNPO法人ノームの根来尚代理事長(52)は「バーガー開発をきっかけに地域とのつながりができるのがうれしい。予選突破を目指す」と話していた。

バーガーフェスタ県予選は29日午後4時から、伯耆町須村の植田正治写真美術館前で開催される。

経営者 手探り 簡易宿所改装補助事業 大阪日日新聞 2015年8月19日



簡易宿所の料金を表示する看板＝大阪市西成区
簡易宿所オーナー向け説明会の出席者＝6月、大阪市西成区役所

急増する訪日外国人旅行者の受け皿として「簡易宿所」をハード面で後押ししようと、大阪市と西成区役所が

改装費用を半額補助する手続きを進行中だ。19日の申請受け付け開始を前に、設備の見直しを検討する簡易宿所オーナーは関心を寄せるが、中には補助の上限額をめぐって二の足を踏む



ケースもある。

「皆さんと一緒により多くの観光客を受け入れたい」。6月のオーナー向け説明会に出席した14社に対し、市の担当者はそう呼び掛けた。改装を加速する「西成特区構想」関連経費として2015年度予算に2千万円を計上した西成区役所は、1軒当たり200万円を上限に補助する。改装の半額補助事業は3年計画で進める意向だ。

■日常風景

西成区の新今宮駅南側に集積する簡易宿所は組合加盟店だけでも約50軒あり、1泊千円台からの安さと交通の利便性は外国人のバックパッカーの人気を集めている。Tシャツ短パンの軽装なバックパッカーが居酒屋の軒先でジョッキを傾ける姿は日常風景だ。

こうした人々の消費動向について、市経済戦略局観光部の安井良三課長は「少しでも宿泊費を減らし、買い物やおいしいものに充てたい」と分析。大阪観光局の17日発表によると、15年の来阪外国人数は過去最多の年間500万人を突破しそうな勢いのため、簡易宿所への宿泊ニーズはあると見込んでいる。

■様子見

市の補助対象は、シャワールーム▽トイレ▽IT環境（Wi-Fiなど）▽客室▽看板（外国語表記）の5項目で、西成区役所の安井伸也課長は「改装のハードルを下げ、一歩踏み出してもらおうことを狙った」と話す。

これに対し「ぜひ応募したい」と意気込むのは西成区萩之茶屋のオーナー（61）だ。施設内の6割が和式トイレのため、洋式化は「以前からてこ入れしたかった」懸案だったという。

同区太子で営業する男性（38）も「設備が古く水回りを改装したい」と希望するが、上限200万円の設定に「足りない」とも。実際、オーナーの中には「様子見もある」（安井伸也課長）のは間違いない。

労働者向けに開放されている簡易宿所は果たして観光振興の起爆剤になるのか。地元では手探りの状態が続いている。

がん予防ドッグフード開発 岐阜大、商品化目指す 共同通信 2015年8月19日

岐阜大は19日、犬のがん予防に有効とされる植物成分を含むドッグフードを世界で初めて開発し、9月から予防効果の検証を開始すると発表した。3年後の商品化を目指す。

岐阜大によると、欧米では約3割の犬ががんで死ぬ。国内の公式な統計は存在しないが、がんは犬の死因のトップとされる。効果的な予防法は見つかっていない。

研究には岐阜大応用生物科学部付属比較がんセンターのほか、岐阜県獣医師会やペットフードメーカーが参加している。

犬のがんも食事が主要原因の一つとされる。人で抗がん作用が認められている緑茶などの成分をドッグフードに配合し3年間食べさせ、がん発症率を検証する。

DNA作る物質、隕石衝突で生成 東北大などが実験成功 朝日新聞 2015年8月19日

生命誕生前の地球に隕石（いんせき）が衝突した時の状態を再現する実験で、DNAの部品となる物質の生成に成功した、と東北大や物質・材料研究機構などのチームが18日、発表した。複数のアミノ酸ができることも確認、隕石衝突による生命起源説を裏付ける成果だとしている。17日付の欧州科学雑誌電子版に論文を発表した。

チームは隕石に含まれる鉄と、約40億年前の地球の海水に含まれていたと考えられる重炭酸やアンモニア、水などをステンレス製の容器に封入。これに別の金属片を秒速1キロの高速で衝突させ、瞬間的な高温高圧を加えた。その結果、DNAを作る四つの塩基のうちの一つ（シトシン）と、DNAの遺伝情報からたんぱく質を合成する際に働くRNAの塩基の一つ（ウラシル）の生成が確認できた。同時に、たんぱく質を構成するアミノ酸

20種のうち9種類もできていた。

チームは同じ実験手法でアミノ酸の生成に成功していたが、今回は試料に使う炭素を変更し、二酸化炭素が水に溶けてできる重炭酸を使ったところ複数の有機物ができたという。東北大の古川善博助教（地球化学）は「残りの塩基やアミノ酸ができる条件をさらに調べたい」としている。（吉田晋）

ロボットダンスが魅了...東京・羽村で子ども体験塾 読売新聞 2015年08月19日

東京都羽村市生涯学習センター「ゆとろぎ」で18日、科学技術やものづくりへの関心を高めてもらおうと、ロボットをテーマにした「子ども体験塾 ロボットワールド」が始まった。

子ども体験塾は、青梅、福生、羽村の3市が連携して2010年度から開催している。今回は、空気力で動く女性型アンドロイド「アクトロイド」などが展示されている。来場者は、二足歩行ロボットや昆虫型ロボットの体験操縦を楽しんだり、ラジオ体操やダンスを披露するロボットに拍手を送ったりしていた。

最終日の23日には、東大先端科学技術研究センターの高橋智隆特任准教授が「ロボットと暮らす未来」をテーマに講演する。申し込みや問い合わせは、ゆとろぎ（042・570・0707）へ。

「100歳銀杯」が安い代替品に 長寿化進み対象者190倍

東京新聞 2015年8月19日

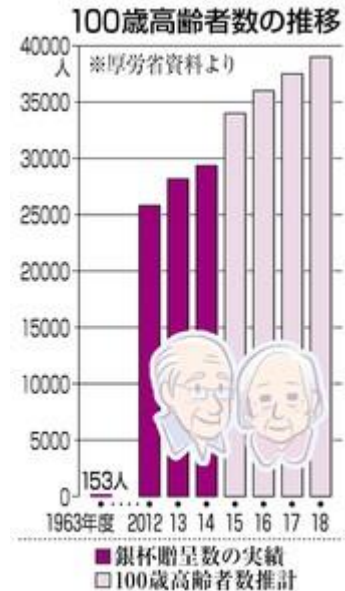
百歳を祝い、老人の日（九月十五日）に首相から贈られる純銀製の「銀杯」（八千円相当）について、厚生労働省は来年度から安価な代替品にするなど見直す方針を決めた。贈呈は一九六三年度に始まったが、長寿化が進み、半世紀で対象者は百五十人余りから約二万九千人に激増。昨年度の予算は約二億六千万円に達し、財政負担が大きすぎると判断した。

厚労省は（1）杯の形を変えず、安価な材質に見直す（2）杯ではなく、より低価格な代替品にする（3）祝い状だけを贈る—などを検討している。

銀杯は直径九センチで純度約99%の純銀仕立て。中央に「寿」、裏面にはその年の老人の日の日付や、「内閣総理大臣」の文字が刻まれている。毎年三月に翌年度の対象者数を見積もり発注するが、例年九月までに約一割の人が亡くなるため、余った分は回収し、鑄造し直すための費用もかかる。

事業は老人福祉法に基づき、百歳を迎える人の長寿を祝い、社会への貢献を感謝する目的で始まった。初年度の対象者はわずか百五十三人だったが、昨年度は二万九千三百五十七人（男性四千三百五十七人、女性二万五千人）と約百九十二倍になった。

<老人の日> 内閣府によると、1947年に兵庫県野間谷村（現・多可町）で始まった敬老行事がきっかけで9月15日を「としよりの日」とする運動が全国に展開。66年に「敬老の日」と名を変え、9月15日が国民の祝日となった。2001年の老人福祉法改正で9月15日は「老人の日」に、03年の「国民の祝日に関する法律」改正で、祝日としての「敬老の日」は9月の第3月曜日となった。





北海道新聞 2015年8月19日
障害者と子供たちが描いた作品を前に受賞を喜ぶ吉谷優子さん

【北見】精神障害者と小中学生の交流プログラムを年に1回続けている日赤道看護大（北見）講師で看護師の吉谷優子さん（48）が、文部科学省所管の独立行政法人、日本学術振興会の「ひらめき☆ときめきサイエンス推進賞」を受けた。吉谷さんは「地域の理解と協力のおかげ」と喜んでいる。

ひらめき☆ときめきサイエンスは、同振興会の補助を受けた大学の研究成果を小中高生に伝え、科学の面白さを感じてもらおう事業。推進賞は5年以上取り組んだ研究者が対象で、吉谷さんは今年で6年目となる。本年度は全国で25人、道内で3人が受賞した。

吉谷さんのプログラムは、障害の有無を問わず誰もが共に暮らせる「ノーマライゼーション社会」をイメージした絵を、精神障害者と小中学生が共同作業で完成させるもの。子供たちは障害者の体験談や思いに耳を傾け、公園でたくさんの人が遊ぶ姿や、災害時に助け合っている様子などを描くという。

30人の定員は、毎年埋まる。吉谷さんは「実施する前はこんなに子供たちが集まるとは思わなかった。ノーマライゼーションに対する意識の高い親が勧めてくれている。参加した子供たちも、多様性を大切にす大人に成長してほしい」と話している。

今年も9月26日午前10時から、同大で交流プログラムを行う。申し込みは9月4日までに同大経理課（電）0157・66・3311へ。（権藤泉）

（やってみなはれ）子どもともっと汗流そう 十河朋子



朝日新聞 2015年8月19日

池田有美さん

■障害児と親をヨガで元気にする 池田有美さん（38）

この日講師を務めたのは、障害児を育てるママたちのヨガサークル。まず、一人ひとり片足を後ろに上げてみる。うまくバランスが取れず、ぐらぐらするママも。続いてみんなで輪になって隣の人と手をつなぎ、同じように片足を後ろに。さっきは安定しなかった体がピタリと決まった。

「1人では難しくても力を合わせればできる。子育ても一緒」。高機能自閉症の長男（11）がいる、自身の実感でもある。

東京都の「防災ブック」に誤表記 広報紙で訂正へ 共同通信 2015年8月19日

東京都は19日、都内の全世帯に9月から配布する「防災ブック」の一部に記載の誤りがあったと明らかにした。既に750万部を印刷しており、シールを貼るなどの修正作業を実施すれば約4億円の費用がかかるため、そのまま配布し、広報紙と都のホームページで訂正する。

首都直下地震などへの備えをまとめた防災ブックは約340ページ。この中で、障害者や妊婦など災害時に配慮が必要な人に関するシンボルマークを集めたページのタイトルを、誤って障害者に関するシンボルマークと記載した。

担当者は「業者とのやりとりの中で、確認が足りなかった。誤解を招く表記になり、申

し訳ない」としている。

脳卒中後遺症で心神喪失、万引き無罪…大津地裁

読売新聞 2015年08月19日

滋賀県草津市内のスーパーで万引きをしたとして、窃盗罪に問われた女性被告（64）に対し、大津地裁（赤坂宏一裁判官）は18日、「くも膜下出血の後遺症による高次脳機能障害で、犯行時、心神喪失状態にあった」として無罪（求刑・懲役6月）を言い渡した。

判決などによると、女性は2013年5月、同市内のスーパーで米や総菜など4点（計3300円相当）を万引きしたとして、同年7月に在宅起訴された。

女性は00年にくも膜下出血を発症した後、認知や記憶に障害が残り、起訴の約3か月後に障害者手帳を取得。弁護側は起訴事実を認めたとうえで、「中度から重度の高次脳機能障害の影響で心神喪失状態にあった」と無罪を主張、検察側は「心神耗弱状態で、刑事責任能力はある」としていた。

判決で赤坂裁判官は女性について、「障害により、その場に応じた行動、善悪の判断ができなくなっていた」と指摘した。

大津地検は「上級庁と協議の上、適切に対応したい」とコメントした。

論説：マイナンバー制度 実施時期にこだわるな

岩手日報 2015年8月19日

このままマイナンバー制度を導入すれば、社会に大きな混乱を招くのではないかと。国民への番号通知まで1カ月余りに迫ったが、課題は山積している。

制度は国民一人一人に12桁の番号を割り当て、国や自治体が各種の個人情報を効率的に管理するのが目的。「社会保障」「税金」「災害対応」の3分野で活用することが決まっている。

10月には番号が各世帯に郵送され、来年1月から運用が始まる予定だ。

自治体は、各種データを番号と結びつける作業に追われている。岩手日報社のアンケートでは、県内では県、市町村の9割が「順調」としているが、規模の小さい自治体では対応に苦慮している。

他の自治体でも、セキュリティー確保のための職員教育などの課題が残る。番号が他人に知られれば悪用の危険があるだけに、高齢者の管理が心配という声もあった。

東日本大震災の被災地特有の問題もある。住民票を残して外に避難している人が少なくない。

この問題に対して、国が住民票の住所以外でも受け取れる特例を発表したのはやっと8月になってからだ。

住所を知られたくないドメスティックバイオレンス（DV）の被害者らについても同様だ。政府の対策はいかにも遅い。

民間企業も従業員や扶養家族の番号を収集し、源泉徴収票などの書類に記載することが義務づけられるが対応は遅れている。

各種の調査から浮かび上がるのは、制度の内容が分からず、対応を進めているのはまだ少数という寒い状況。このままでは間に合わない恐れが大きい。

この結果、セキュリティーが甘くなつては元も子もないだろう。6月には大量の年金情報がサイバー攻撃で流出する事件が起き、不安が現実になった。

しかし、個人情報の漏えいはシステムの不備や情報を取り扱う職員の不注意など、サイバー攻撃以外でも起きると考えた方がいい。

安全な体制を構築するための余裕がない。国民への浸透も足りない。今のままでは、制度のあちこちにほころびが出てきそうだ。万一にも個人情報の漏えいが起きれば、制度の信頼性が失われる。

政府は、個人番号を金融機関の預金口座にも適用するマイナンバー法改正案を国会に提

出している。

年金情報の流出問題で足踏み状態になっているが、野党からは制度開始の延期を求める声も出ている。ここは実施時期にこだわらず、国民の不安解消と十分な準備を優先させるべきではないか。

J E A 発No.15-25 2015年8月18日

警視庁 警視総監 高橋 清孝 様

公益社団法人 日本てんかん協会 会長 鶴井 啓司

事故・事件捜査における病名の公表に関する質問と要望

貴職におかれては、日頃から社会の安全と秩序の維持にご尽力を賜り、感謝申し上げます。

当協会は、会員の約8割を、てんかんのある人とその家族で構成する「当事者団体」です。1973年から40年以上にわたり、てんかんについての正しい知識の社会啓発や調査研究・施策提言・相談援護等の活動に取り組んでいる全国組織で、これらの活動が認められ2013年に「公益社団法人」への移行認定を受けたところです。

さて、8月16日に東京都内池袋で起きた自動車事故について、本日（8月18日）警視庁が被疑者を危険運転致死傷罪で書類送検したとの報道がありました。その際に、事故の原因が明確になっていない中で、被疑者がてんかんの治療を受けていたこともマスコミに対して情報公開がされました。この時点では、てんかん発作や抗てんかん薬等の影響が事故の原因と因果関係があるとは明らかになっていませんでした。事故原因が明らかにならない時点での病名公表は、憶測を呼び病気に対する偏見を助長します。今回事故捜査において、因果関係が明らかでない段階でてんかんという病名が公表されたことは、大変遺憾です。当協会では、この情報公開に基づいた報道が行われたことで、あたかもてんかんが危険な病気であるかのようにニュースだけが一人歩きし、てんかんのある人への誤解や偏見をさらに助長することになりかねないことを深く憂慮します。

当協会は、てんかんがありながらも懸命に生きている多くの患者・家族の権利を守るためにも、このように事実関係が曖昧なまま、てんかんやてんかんのある人の責任が言及されてしまうようなことを、黙認することはできません。

今回の書類送検において、警視庁がてんかんの病名を公表されたことにより、この情報に基づく報道が、てんかんのある人やその家族に不安を与えています。その点から、協会としては、捜査段階で事故原因が断定されていないのに病名を公表すべきではないと考えています。

つきましては、今回病名を公表された意図についてご回答をお願いするとともに、下記について改めて要望をいたします。

記

1. 事故・事件の原因と病気やその症状に明らかな因果関係が証明されない段階で、てんかんなどの病名を安易に公表しないでください。

以上

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も



大阪市天王寺区生玉前町 5-33 社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所発行